



高名なお坊さん（その31）

鳩摩羅什（西暦344年～413年） 亀茲国出身の西域僧

西域の亀茲国で生まれ父はインド人。大乘仏教を学び、高僧として知られていた。五胡十六国の争乱期の5世紀初めに、長安で多くの仏典を翻訳し、中国仏教の発展の基礎を築いた。

4世紀の末に、シルクロードを通して西域から中国に渡り、仏教を伝えた渡来僧。その名クマーラジーヴァを漢訳して鳩摩羅什と表記する。タリム盆地の亀茲国に生まれた。7歳で出家し、9歳でインドに渡り仏教を学び、大乘仏教を修めた傑僧であった。

インドでサンスクリット語を学んだ鳩摩羅什は亀茲国に戻り、さらに西域諸国の言葉をマスターした。しかし亀茲国が五胡の一つ前秦の苻堅によって征服され、鳩摩羅什は涼州に移った。そこで17年間幽閉されたが、その間に漢語をマスターした。サンスクリット、西域の諸語、漢語に通じ、語学の天才として知られるようになった。

長安で仏典の漢訳と説教に努め、鳩摩羅什の翻訳した経典は『法華経』『阿弥陀経』『維摩経』などの大乘仏典をはじめ、ナーガールジュナ（竜樹）の『中論』などの多数にのぼり、これによって中国仏教の基礎が築かれた。



鳩摩羅什

住職レター

上記の『高名なお坊さん』シリーズで、鳩摩羅什を取り上げますと、二十四年前（西暦二〇〇〇年）四月十四日から五月十九日に旅した、シルクロード仏教遺跡探訪が、走馬灯のように思い返されました。西遊記で有名な唐代の学問僧玄奘三蔵が、当時辿った跡を、バスか鉄道で行く、ほぼ無計画な旅。若いから出来たのでしょうか。ノートパソコンを持参し、

各地からインターネットにアクセス。当時はネットカフェのある時代ではなく、ホテルの部屋にある電話回線にネットにアクセスし、善教寺ホームページへ、探訪記の書き込みと現地の写真をアップしながらの旅でした。今考えても、よくぞ生きて帰って来られたものだと思います。

広島空港から西安（唐の都長安）に入り、仏教伝来の地である西域のクチャ（唐の時代の亀茲国）に到着したのが、五月十日。当時に書いた探訪記を読み返すと、この頃の体調は最悪だったと書かれていました。ウイグル自治区に入り、香辛料の強い食事と、砂漠特有の気候が体力を奪ったのでしょうか。そんな中、鳩摩羅什が生まれた地にある、キジル千仏洞に行き、ここに建つ鳩摩羅什像の前で、体調最悪の中、讃仏偈を称えたことが思い返されました。

このキジル千仏洞のハイライトは、日本の雅楽のルーツともいわれている楽器が描かれた、第三十八窟です。この話は、後日談を含めて、来月の寺報に続けますね。

シルクロード仏教遺跡探訪の旅、私の坊主道、原点になりました。



キジル千仏洞の鳩摩羅什像（私が撮影）



キジル千仏洞をバックに現地で交流した人（左が私）

ゆかりの 寺シリーズ その34

北条早雲 ゆかりの寺
「早雲寺 (臨済宗大徳寺派)」



箱根湯本の早雲寺は、1521年（大永元年）、北条早雲の遺言により北条氏綱が創建した臨済宗大徳寺派の寺院。小田原北条氏の初代当主伊勢宗瑞、後の北条早雲を祀る寺院として、二代当主北条氏綱が京都大徳寺八十三世の僧、以天宗清を開山として招いて創建。本尊は釈迦三尊仏。

小田原北条氏の菩提寺として栄え、1542年（天文11年）には後奈良天皇の勅願寺となったが、1590年（天正18年）の豊臣秀吉の小田原攻めの際、秀吉軍の本陣が置かれ、石垣山の一夜城が完成すると焼き払われた。

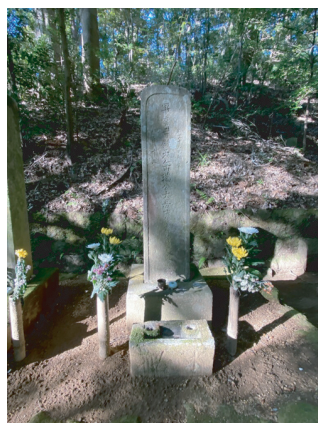
その後、1627年（寛永4年）、十七世菊徑宗存によって再建される。



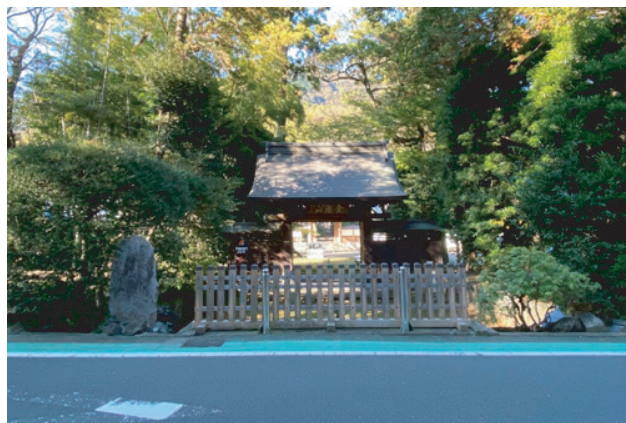
早雲寺本堂



北条早雲像（早雲寺蔵）



北条早雲のお墓



早雲寺惣門

「宗祖聖人月忌・

門信徒祥月命日法要」(善教寺本堂)

七月 十六日(火) 午後一時半〜

*毎月十六日に本堂において勤めております

「孟蘭盆会法要」(善教寺本堂)

八月 十日(土)

午前十時〜 朝席

午後一時半〜 昼席

講師 中村啓誠師

(本願寺布教専従員)

「孟蘭盆会法要」(柏原説教堂)

八月 二十三日(金)

午後一時半〜 昼席

午後四時〜 夕席

講師 水戸法道師

(東広島市西条下見 明顕寺)



今後の法要スケジュール